

課題番号：2021-5
研究課題名：新機能を搭載した生化学自動分析装置による 測定値及び反応過程の分析
実施代表施設：キヤノンメディカルシステムズ株式会社 実施責任者：喜多 祥一
実施期間：倫理委員会承認後 ～ 2022年12月31日
試料・情報管理責任者代表施設：キヤノンメディカルシステムズ株式会社 試料・情報管理責任者代表者：喜多 祥一
対象となる試料・診療情報 「臨床検査の測定及び診断技術の向上プロジェクト 検体（診療上の採取血液等）の研究利用についての同意書」により同意の得られた試料提供者の試料・診療情報 <ul style="list-style-type: none"> ■ 血液試料 <ul style="list-style-type: none"> ■ 血清 (西暦2018年1月1日～2022年10月31日までに検査のために採血した患者さんの試料) ■ 血漿 (西暦2018年1月1日～2022年10月31日までに検査のために採血した患者さんの試料) ■ 尿試料（倫理審査承認後～2022年10月31日までに検査のために採尿した患者さんの試料） ■ 臨床情報（傷病CD、既往歴CD、投薬歴、その他（手術コード）、性別、年齢、検査結果）
研究の目的、意義 検査センターや病院等の臨床検査室では、日々、数千検体の患者検体(血清等)を生化学自動分析装置に搭載された様々な試薬で測定し、数多くの測定値が得られている。その過程で数は少ないものの検体に由来する偽低値あるいは偽高値を見極める必要がある。これらの作業は検査効率を悪化させる要因の一つであり、検査現場から改善が求められている。そこで、生化学自動分析装置の開発および搭載する新機能の開発を行うことで、臨床検査現場での利便性および検査効率の向上を目指している。
実施方法 様々な臨床検体を既存の生化学自動分析装置および開発中の新機能を使用して測定する。得られた測定結果や反応過程の結果を比較し、新機能のみで特徴的な測定値が得られていた場合、臨床情報と比較し、特徴的な臨床情報に由来する変化かどうかを検討する。本研究により新機能の有用性が確認されれば、臨床検査現場での利便性および検査効率の向上につながる。
試料・情報の第三者への提供について 該当なし